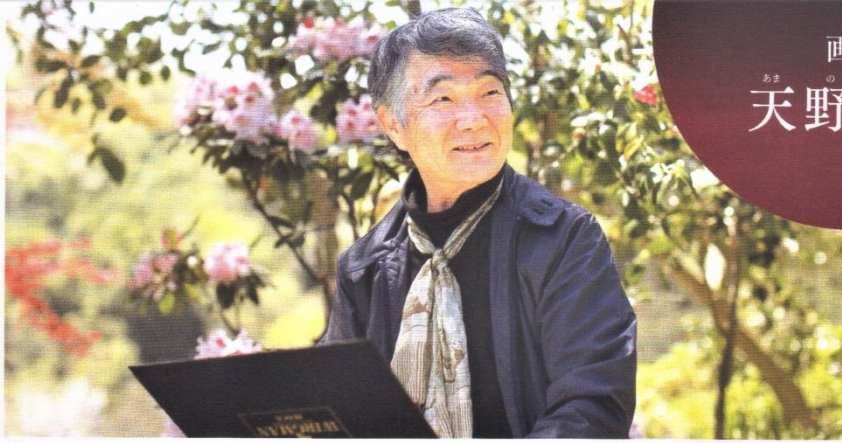


画家  
あまのりょうぞう  
天野亮三



1942年生まれ。福岡市出身。東京でインテリアデザインを学び、福岡帰省後は造園設計・施工の会社に勤務。その時に一級造園技師、樹木医の資格を取得。早期退職。独立後、岡山県久米郡久米南町へ転居。それを機に絵画指導と自身の水彩画創作に専念している。  
お問い合わせ先  
TEL.086-728-2327

・青・黄、三色から生まれる無限の



詩画集「野の花の隣で」天野さんのご厚意により、5名にプレゼント。詳しくはP18「読者プレゼント」をご参照ください。

「から久米南へ移住した理由です。息子が岡山の大学に進学してそこからたまたま久米南町をクルマで通りがかったんです。その時に妻と「こらあたりはイタリア、トスカナ地方に似ているね」と。昔スケッチ旅行で訪れたフィソレの丘を思い出しました」と懐かしそうに語る天野さん。それ以来、久米南町のことを忘れられず、一五年前、五八歳の時に転居。「わざわざイタリアまで行かなくても良くなる」と笑う。

もともと画家をめざしていた天野さんが学校卒業後は造園関連の会社に就職。仕事の合間に絵を描く日々が続く。「現場でスラスラとパスが描ける」ということで、仕事は繁盛しました。お客さんからも喜ばれましたね。そんな天野さんが描くのは四季折々の花や刻々と変化する景色の移ろい。自然に対する慈しみと細やかな視点は、観る人の心にほんのり明かりを灯す。「私の絵の特徴をひとつ挙げるとしたら赤・青・黄の三原色の絵具だけで描くことでしょうか。もともとは油絵を描いていたんですが、ある時、水たまりに落ちたオイルの油膜が、虹色に見えるのを描こうと具を混ぜてみただけです。と使えば使うほど色自体は消えてしまふ。要は色の使い過ぎ。結果、試行錯誤の末、三原色のみで無限の色を表現できるようにになりました。」

天野さんが「虹色」を表現するのは何年もかかったそう。ちなみに雪の白は影を作り、白そのものは画用紙の地の色を残すとのこと(左写真)。現在は「三彩(みいろ)の会」を主宰し、絵画指導も行っている。「スケッチ旅行には86で出かけます」。好奇心いっぱいの天野さんの話は輝いていた。



## 天野亮三 水彩画 三彩の会主宰

1942年 福岡市博多生まれ  
東京にてインテリアデザイン科卒  
ヨーロッパにスケッチ旅行(フランス・イタリア・スイス)  
NHK放送センター(北イタリアの光と影) 個展2回  
2008年 詩画集「野の花の隣で」出版  
山陽新聞社サンタギャラリー 個展3回  
その他 各地で個展を開く  
現在 岡山在住